

2022年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2023年 4月28日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 基盤教育センター・准教授

(氏名) 廣川 祐司

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	大学生と地域住民との協働学習活動による地域社会を「学習する地域」へ					
	合計	使用内訳 (単位:円)				
交付決定額	600,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	496,374	0	113,740	0	24,444	358,190
執行残額	103,626					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
	地域共生教育センター・特任教員		岩本晃典		地域社会学の観点から「よそ者論」への理論化/地域活動事例の情報集積	

研究分野：地域社会学、教育学 (Adult Education)、地域創生学

キーワード：「よそ者」論、社会的学習理論、大人の学び

研究成果の概要 (和文)

今年度の調査では、日常的に地域課題の解決に向けて大学生と共に活動している地域の大人たちへの「教育・学習」効果について、その変化を地域の方々がどのように「自認」しているのかについて、インタビュー調査を主としたデータの収集によって、検証しようとしたものである。結果として、「主体意識の醸成」「多様性理解の向上 (寛容さの修得)」「視野の拡大・全体性の意識」「学習意識の向上」という変化が生じていることが分かった。しかし、その変化を自分自身で言語化し、深く理解する段階には至っておらず、またそのような変化が生じた要因についても、地域の方々は認識してはいない状態であった。

今回集めたデータをもとに、その要因分析とその変化を深く「自認」できるようにするための定期的な相互のフィードバックの場の整備が必要となってくるだろうという課題があることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで大学の社会貢献とは、地域へのボランティア活動や研究成果の社会への還元と

いう点に重きが置かれていた。しかし、「地域創生学」という分野が生まれつつある状況において、地域の中に「よそ者」として、「学び方を理解している“若者”」たちとの共同活動において、その効果が地域の方々に波及することで、地域側のマインドやスキルに好影響を与えつつあることが、事例としていくつも存在することが発見できた。これらの現象を学術的な理論として構築するまでは時間がかかりそうであるが、仮説の検証という意味において「地域創生学」の構築に向けて、よいデータの集約ができたと考える。

1. 研究の背景

地域創生学群は開設して12年経った。「地域系学部」の先駆けとして、「地域で学ぶ」のノウハウの蓄積がなされてきた中で、長きにわたって、大学生とともに活動する地域側の住民の意識の変化やスキルの向上が生じていることを感じる機会が増えてきた。そこで、地域創生学群の大学生が地域活動の実践の中で学んでいる、プロジェクトマネジメントやPDCAサイクルの実践などのマネジメント理論、チームビルディングや目的設定・役割分担の意味などの組織論など、地域創生学群生が日々の地域実践活動で行っている学びを、地域住民とともに実践することで、次第に地域住民もこれまでの地域行事の進め方や企画を立てる際の視点や手法に大きな変化が生じてきた。住民が自ら学ぶことで、地域自治力を高め、地域の持続可能性が高まる可能性がある。

2. 研究の目的

大学生を受け入れている地域側が、大学生とともに活動していく中で、地域側のアクターが能力の向上や専門的な理論の実践スキルの修得がなされているのではないか、という仮説を持った。そこで本研究では、「地域住民が大学生と協働学習（collaborative learning）することによる、地域の大人たち自身の変化やスキルアップをどれほど自己認知しているのか」について明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

参与観察においては「大学生と地域住民との協働学習の場」を日常的に創出し、研究代表者がその活動の様子を客観的な視点で記録し、分析する。また、エスノグラフィックインタビューは大学生と地域住民との協働学習を構成する双方のアクターにともに実施した。大学生に対しては「地域住民に対して何かしらの“教える”」という意図や思いの有無を検証し、地域住民に対しては「活動の初期と現在との自身の変化」についてヒアリング調査を実施した。

4. 研究成果

今年度は、主として地域の方々がどう感じているのかという、どれほど自分（たち）の

変化を「自認しているか」という点に焦点をあてて、インタビュー調査によるデータ収集を基礎的調査として実施した1年であった。そのインタビュー調査による地域の方々のコメントの変化を分析したところ、以下のような傾向があることが分かってきた。

以下、継続的に「大学生と協働学習に取り組む地域の方々」の変化である。

①主語が「大学生が・・・」から、「私たちが・・・」に変わった。(主体意識の醸成)

②まちにいる多様な方々の相互理解がすすんだ。(多様性理解の向上)

→大学生には「地域でのしがらみ」がないことから、地域での立ち位置として、ニュートラルな立場の為、多様な人同士を繋ぐ効果が大いと感じたという意見が多く、そのおかげで、年代・立場・職種を越えた連携や協働が可能になって、違いを理解し寛容になることができたとする意見が多々あった。

③自分の店や職場のことを考えるだけでなく、まち全体のことを意識することが増えた。
(視野の拡大・全体性の意識)

④「大学生」という存在の認識の変化

→投書は「大学の活動に協力してあげる」「大学生に教えてあげる」というスタンスで関わっていたが、継続して活動を続けることで、「大学生のすごさ」を感じ、「大学生のやり方を参考に考える」ようになり、「大学生から学ぶ」ことをしようとする地域の大人が増えた。(学習する地域へ・学習意識の向上)

以上の事が、今回フィールドとした行橋市と直方市との共通する点であるが、現時点ではあくまでも情報(データ)の収集による類型化をしたに過ぎない。より高度な分析を重ね、「主体意識の醸成」「多様性理解の向上(寛容さの修得)」「視野の拡大・全体性の意識」「学習意識の向上」の要因分析と相互関係の仮説の検証を行う必要があるだろう。

2023年1月31日

2022年度 商店街売上アッププロジェクト 活動成果報告書

「行橋商工会議所」負担金



公立大学法人 北九州市立大学 地域創生学群

担当：准教授 廣川祐司(廣川ゼミ)

※なお、本委託事業(行橋商工会議所 小規模伴走支援事業)の実施の際に、ともに取り組む行橋未来構想会議の地域の方々を対象として、2022年度採択北九州市立大学特別研究推進費「大学生と地域住民との協働学習活動による地域社会を『学習する地域』へ」(研究代表者:廣川祐司)の調査研究活動を合わせて実施した。改めて、本事業である「行橋商工会議所」負担金事業を取組みと一緒に活動して頂いた地域の皆様方においては、合わせて特別研究推進費への調査協力を頂いた事にここに付記し、お礼を申し上げます。

目次

1.はじめに

2.2022 年度商店街売上アッププロジェクト活動一覧

1)活動概要(活動日・活動場所・活動内容)

2)各活動成果

2-1

▶□定期的に行われた活動

- (1) 行橋未来構想会議について
- (2) 行橋 Facebook ある〜く行橋について
- (3) 新商品開発について
- (4) まちあるきについて

2-2

▶□イベント活動について

- (1) 7月フットパスイベントについて
- (2) 10月フットパスイベントについて
- (3) リブリオ市民講座第1回目～第3回目について
- (4) ひな祭りフットパスイベント (行橋商店街イベント with フットパス)
- (5) 椿市フットパス

▶□その他

- (1) 白杵フットパスフォーラムについて

おわりに

はじめに

行橋市の中心市街地の商店街では、車社会の広がりによって、郊外に出店している大規模スーパーなどに客足を奪われてしまっている。そのため、昔のような賑わいは無く、新たな顧客の開拓もできていないという課題が存在する。先細る客足に危機感を感じている店主は多く、現在、存在している貴重な顧客の客離れを何とか阻止すべく、自身のお店へ時間と労力をかけている店主が多い。中心市街地の活性化やまちの賑わいづくりに関する取組みにおいても、各店主は「忙しいから参加するのは無理」「自身のお店の事で手一杯」という声も多い。

商店街の成り立ちとしては、もちろん、「日々の生活に必要な商品を売る店」が集積している場所という文字の通りであるが、郊外に出店している大型スーパー等に対して、商品の品ぞろえや価格で競争することは無理があると感じざるを得ない。つまり、「商品を売る」というビジネスモデル自体が、中心市街地の商店街ではもはや成り立たなくなっているのである。

このようなビジネスモデルの大きな転換期において、大量生産された安価な「モノ」を売るという商店から、作り手の思いやこだわりで魅力を感じ商品を購入する、つまりストーリーを消費するという「コト」消費に大きくシフトチェンジできるような商店が増えていく必要があるように感じている。

そのためには、そのまちの魅力や店主の魅力、商品へのこだわりや思いを、新たな顧客層へ伝えられる機会を創出する必要があると考えた。この我々の考え方を検証するために、本事業が採択される前の7月に社会実験として、まちを巡り、各商店との新たな出会いを創出できるまち歩きイベントを開催した。運営上の大きな改善点は連携する店主より指摘されたが、効果としては十分にあり、10月の本番を目指して、取り組んできた。本報告書によって、今年度の取組みが一定の成果を上げることができたことについて、お伝えできれば幸いである。

北九州市立大学 地域創生学群
廣川研究室 代表
准教授 廣川祐司

2022年度 行橋商店街売上アッププロジェクト活動一覧

北九州市立大学地域創生学群 廣川ゼミ編

1 活動概要

〈目的〉

- ① 売上 UP
- ② 新規顧客の開拓
- ③ ①と②を達成する為の月1回の研修会の実施

(1) 活動日・活動場所・活動内容

- ◎8月4日(木) ・オンライン・川上真平さんとの打ち合わせ
- ◎8月26日(金) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎8月26日(金) ・リブリオ行橋・2022年度第1回未来構想会議
- ◎8月29日(月) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎9月26日(月) ・リブリオ行橋・リブリオ市民講座第1回目
- ◎9月30日(金) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎9月30日(金) ・リブリオ行橋・2022年度第2回未来構想会議
- ◎10月11日(火) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎10月12日(水) ・オンライン・正野昌子さんとの打ち合わせ
- ◎10月12日(水) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎10月14日(金) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎10月16日(日) ・リブリオ行橋&商店街付近・行橋フットパス
- ◎10月17日(月) ・オンライン・正野昌子さんとの打ち合わせ
- ◎10月21日(金) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎10月21日(金) ・リブリオ行橋・2022年度第3回未来構想会議&正野昌子さんとの打ち合わせ
- ◎11月2日(水) ・オンライン・正野昌子さんとの打ち合わせ
- ◎11月4日(金) ・オンライン・大村重彦さんとの打ち合わせ
- ◎11月14日(月) ・オンライン・三浦桃奈さんとの打ち合わせ
- ◎11月18日(金) ・オンライン・正野昌子さんとの打ち合わせ
- ◎11月20日(日) ・リブリオ行橋&商店街付近・リブリオ市民講座第2回目
- ◎11月25日(金) ・リブリオ行橋・2022年度第4回未来構想会議
- ◎12月12日(月) ・商店街付近・イベントコースまちあるき
- ◎12月23日(金) ・オンライン・三輪三佐子さんとの打ち合わせ
- ◎12月23日(金) ・オンライン・2022年度第5回未来構想会議
- ◎1月20日(金) ・リブリオ行橋・2022年度第6回未来構想会議

行橋未来構想会議 実施報告

文責：大村柊里

(北九州市立大学 地域創生学群 2年生)

≪活動日・参加人数≫

2022年8月26日(金)	2022年度第1回行橋未来構想会議	ハイブリッド
	参加人数：27人 (アクター：15人 大学：12人)	
2022年9月30日(金)	2022年度第2回行橋未来構想会議	ハイブリッド
	参加人数：21人 (アクター：9人 大学：12人)	
2022年10月21日(金)	2022年度第3回行橋未来構想会議	ハイブリッド
	参加人数：29人 (アクター：13人 大学：16人)	
2022年11月25日(金)	2022年度第4回行橋未来構想会議	リブリオ行橋
	参加人数：21人 (アクター：13人 大学：8人)	
2022年12月23日(金)	2022年度第5回行橋未来構想会議	オンライン
	参加人数：18人 (アクター：8人 大学：10人)	
2023年1月20日(金)	2022年度第6回行橋未来構想会議	ハイブリッド
	参加人数：16人 (アクター：10人 大学：6人)	

≪目的≫

本会議は、行橋市中心市街地の商店街に人のにぎわいをもたらすため、商店街主をはじめとした中心市街地に危機意識を有する人々とともに立ち上げた会議体である。中心市街地で活動する様々な団体や組織と連携することによって、まちに人出を増やすための取り組みを模索している。具体的には、商店街がにぎわうことによって、中心市街地の各商店「商店の売り上げ向上」と「新規顧客の開拓」の二つの目的を達成するために、月に1回の研修会を行うものである。

≪概要≫

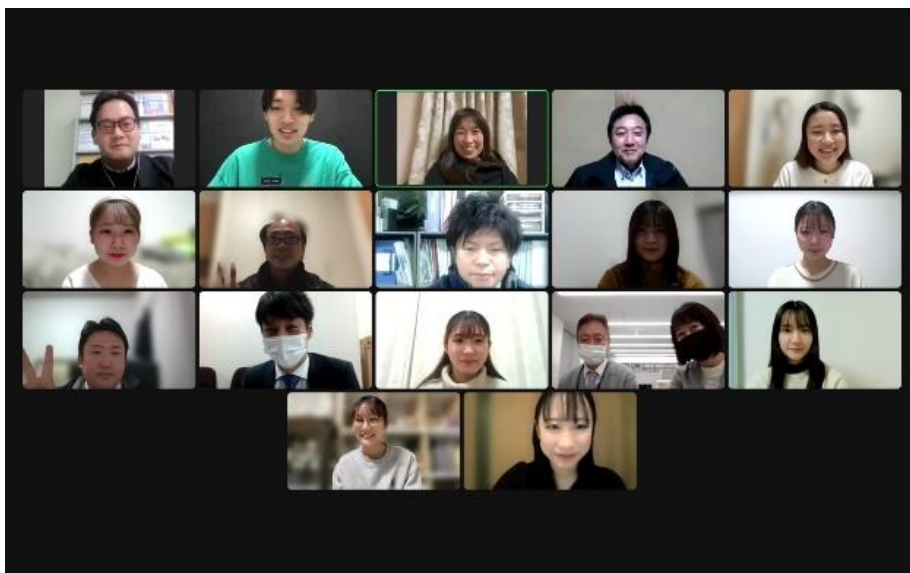
本会議では、中心市街地の商店街で活動する様々な団体の人々と月に1回集まり、上記した目的を達成するための取り組みの企画・運営・振り返りを行う。

今年度(2022年8月～2023年1月)は、毎月末金曜日の計6回「行橋未来構想会議」と銘打って開催した。事務局をリブリオ行橋(行橋市図書館)が務め、日常的にまちの人々が相談しやすい体制を構築できた。実施方法は、基本的に事務局のあるリブリオ行橋にお

いて対面で実施された。参加者の中には、対面での参加がしづらい環境下にいる方もおり、オンラインでもその会議の様子をリアルタイムで配信し、ハイブリッド形式での実施となった。



『対面とオンラインでの会議の集合写真』



『オンラインでの会議の集合写真』

8月に行われた2022年度第1回研修会（以下、愛称である行橋未来構想会議と記す）では、本事業を実現するための社会実験として、7月24日（日）に実際にまちを歩いて、今まで知らなかった商店や店主との出会いを創出することを目的とした「行橋フットパスイベント」の振り返り会（反省会）とした。この7月のイベントには、8月以降、共に連携して活動していく地域のメンバーの多くが参加しており、本事業の取り組みの改善策を模索するための重要な反省会となった。

8月の未来構想会議で参加者から示された反省点は以下の通りである。

<反省点>

- 7月のイベントを実施する目的や目標が曖昧で、運営側での一部の人にしか共有されていなかった。
- 各店舗でどのくらいの売り上げが出たのか、正確に把握していなかった。

以上の反省点から、10月16日（日）にフットパスイベント（以下、「リブリオ市民講座 フットパス編 第2回」と記す）を行うことが決定した。またこのイベントに先立ち、9月18日（日）にフットパスについての勉強会（以下、「リブリオ市民講座 フットパス編 第1回」と記す）を市民を巻き込んで行うこととなった。

9月に行われた2022年度第2回行橋未来構想会議では、「リブリオ市民講座 フットパス編 第1回」の振り返り会が行われた。台風の影響のためオンラインでの動画配信となったが、参加者も運営側もフットパスについて改めて詳しく学ぶことができ、次回の「リブリオ市民講座 フットパス編 第2回」に繋げることができるような講座となった。

10月に行われた2022年度第3回行橋未来構想会議では、「リブリオ市民講座 フットパス編 第2回」の振り返り会が行われた。本イベントでの成果や反省点は以下の通りである。

<成果>

- 本イベントを通し、計44,780円の売り上げとなった。
- 参加者の中で初めて立ち寄った方が各店舗10名以上であるということから、本イベントをきっかけに、まちの魅力やお店を発見し、それを持ち帰っていただくことができた。
- 41名もの顧客を開拓することができ、多くの方に店主のこだわりや思いを感じていただくことができた。

<反省点>

- 事前に各チームで立ち寄るお店の振り分けを行っていたため、参加者が立ち寄りたいたいお店に立ち寄ることができなかった。

また本会議にて、11月に「椿市フットパスイベント」と「リブリオ市民講座 フットパス編 第3回」を行うことが決定した。「椿市フットパスイベント」は、椿市の産物を中心市街地で売るためのきっかけとして企画された。「リブリオ市民講座 フットパス編 第3回」は、第1回と第2回の振り返りを目的に企画された。

11月に行われた2022年度第4回行橋未来構想会議では、「椿市フットパスイベント」と「リブリオ市民講座 フットパス編 第3回」の振り返り会が行われた。「椿市フットパスイベント」の成果は以下の通りである。

<成果>

- 参加者の方に猪肉や干し柿などの椿市の特産品をふるまうことができた。
- 参加者に椿市地区について知ってもらうことができた。

「リブリオ市民講座 フットパス編 第3回」の成果は以下の通りである。

<成果>

- 第1回と第2回の参加者を中心に各講座の振り返りを行い、それを基にオリジナルのフットパスコースを作成していただいた。計3コースが作成された。
- 各コース中には第2回で立ち寄ったお店が含まれており、参加者がそのお店に愛着を抱き、他者に発信していることが分かる。
- 作成されたコースはリブリオ行橋のコワーキングスペースにて展示されており、多くの市民が観覧することができる。

12月に行われた2022年度第5回行橋未来構想会議では、商店街でのイベント実行委員の方から、商店街のイベントでフットパスを行わないかという提案を受け、「ひな祭りフットパスイベント」を行うことが決定した。

1月に行われた2022年度第6回行橋未来構想会議では、「ひな祭りフットパスイベント」の企画が進められた。

今年度の行橋未来構想会議では、対面またはオンラインでの会議でも、司会進行はアクターに任せた。11月に行われた2022年度第4回までは主に学生側から議題を提示していたが、2022年度第5回行橋未来構想会議からはアクターからも議題を提示してもらうようになり、次第に学生主軸の会議からアクター主軸の会議と移行している。

参加者の今年度の感想として、行橋未来構想会議会長の川上真平さんは「感想～」



【対面とオンラインでの会議の様子】

「ある～く行橋 Go Bridge 大好き こうりゅう広場」 実施報告

文責：江頭真歩

(北九州市立大学 地域創生学群 2年生)

《人数》計3名（※運営側の人数も含む）

(内訳)

- ・大学生：2名
- ・地域のスタッフ：1名

《目的》

新型コロナウイルス感染拡大予防として大学での課外活動が制限された影響により、外出せずに行うことの出来る地域活動・地域活性化活動の一環として立ち上げられた Facebook を活用し、イベントの広報・活動報告を行う。

《経緯》

一昨年度新型コロナウイルス感染拡大予防対策として外出せずに行うことの出来る地域活動・地域活性化活動の一環として Facebook ページを立ち上げた。そこに、行橋での「まちあるきイベント」や「市民講座第1～3回」、「椿市フットパス」などのイベント広報・活動報告・振り返りを Facebook ページにて行った。

《成果》

合計フォロワー：468件

合計いいね数：450件

※2023年1月11日現在

皆さんこんにちは☀

リブリオ行橋主催の『リブリオ市民講座～フットパス編～』
について、お知らせさせていただきます💡

行橋のまちの歴史や文化を知って
行橋をもっと好きになろう!
楽しく学ぶ3回コースです!

フットパスとは
地域に昔からあるりの歩道の風景を
楽しみながら歩くこと

リブリオ市民講座 フットパス編

【第1回】 9/18 (日)	【第2回】 10/16 (日)	【第3回】 11/20 (日)
学び方! フットパス勉強会 『地域の魅力を発見する 楽しいまちの歩き方』 (講師) 廣川祐司 (北九州市立大学 准教授)	歩こう! 行橋フットパス ガイドさんとまちあるき 【豪商鮎屋ゆく橋巡りコース】	考えよう! 地域づくりにつながるフットパス グループワークを通して これからの地域づくりに活かそう
10:00～12:00(受付9:45～) 3階スタジオA	13:00～16:30(受付12:30～) 1階けやきホール	10:00～12:00(受付9:45～) 3階スタジオA

※第2回だけ参加費500円がかかります。
全3回参加の方優先ですが1回のみ参加も可能です。

【お申し込み】
電話・FAX
もしくは1Fサービスデスクで
お申し出ください
※個人情報 は本事業のみに使用し、
適切に管理いたします。

【お問い合わせ】
リブリオ行橋 (行橋市図書館)
TEL:0930-25-1911
FAX:0930-25-2912
主催:リブリオ行橋 (行橋市図書館)
共催:行橋未来構想会議 リブリオ行橋HP
後援:行橋市教育委員会

※感染リスクを十分に配慮し、感染等を防ぐための対策を講じた上で開催します。
また、感染状況によっては急遽延期、または中止となる場合があります。

右【リブリオ市民講座 ～フットパス編～ 第2回 広報】

〇日時

第1回 学ぼう!
『フットパス勉強会』
9月18日(日)
10:00～12:00
(受付開始時間 9:45～)

【リブ

第2回 歩こう!
『行橋フットパス』
10月16日(日)

皆さんこんにちは☀

今回は、リブリオ行橋主催の『リブリオ市民講座～フットパス編～』の第2回について、お知らせさせていただきます💡

第2回では、実際に行橋フットパス「豪商鮎屋ゆく橋巡りコース」をフットパスガイドさんと一緒に歩きます👣
地域の方と交流しながら行橋のまちの魅力や今まで知らなかったお店を発見する体験ができ、楽しいまちの歩き方を学ぶことができます!

1回目に参加していない方でも是非お待ちしております☀

また、リブリオ市民講座～フットパス編～は行橋未来構想会議が共催させていただきます!

行橋の魅力を再発見したい方やフットパスを実践を通して学びたい方など、たくさんのご参加をお待ちしております👣

※感染対策を十分に行った上で、開催いたします。

リオ市民講座～フットパス編～ 広報】

左【リブリオ市民講座 フットパス編 ポスター】

○日時
第2回 『実際にフットパスしてみよう』
10月16日(日)
13:00～16:30
(受付開始時間 12:30～)

○場所
リブリオ行橋1階けやきホール

○参加費
500円(資料代等)

○申し込み
電話 0930-25-1911
FAX 0930-25-2912
リブリオ行橋1階サービスデスクまで
または、下記のURLか、2枚目のQRコードから願ひしま
す🌱

※一回目に申し込みをして下さっている方で、二回目の講座も
同時に申し込まれた方は再度申し込みは不要です。

<https://forms.gle/okUs7bFPo6iHEDJJ7>

豪商飴屋
ゆく橋巡りコース

行橋 フットパス

リブリオ市民講座 第二回



10.16(日) 13:00～16:30
(受付時間 12:30～)

場所: リブリオ行橋1階けやきホール
参加費: 500円(資料代等)



【行橋フットパスでは】
行橋のフットパスガイドさんと一緒に
昔からある行橋のありのままの風景を
楽しみながら歩きます!
歩くなかで知らなかったお店や人と出会い
行橋の魅力を再発見しましょう!



【お問い合わせ】
連絡: yukuhasi.kousou@gmail.com
TEL: 0930-25-1911
FAX: 0930-25-2912
主催: リブリオ行橋
(行橋市図書館)
共催: 行橋未来構想会議
後援: 行橋市・行橋商工会議所

【お申し込み】
QRコードまたは
裏面の応募用紙から
FAXでお申し込みください。
※リブリオ行橋の受付やFAX、電話で
第二回講座も同時に申し込まれた方は、
再度申し込んで頂く必要はありません。



※本事業は、行橋商工会議所から2022年度伴走型小規模事業者支援推進事業の助成を受けています。
※感染リスクを十分に配慮し、感染等を防ぐための対策を講じた上で開催します。
また、感染状況によっては急遽延期、または中止となる場合もあります。

【リブリオ市民講座 ～フットパス編～ 第2回 広報】

左【リブリオ市民講座 ～フットパス編～ 第2回 QRコード】

右【椿市フットパス 広報】



皆さんこんにちは😊

今回は、椿市フットパスについてお知らせさせていただきま
す👣

※感染対策を十分に行った上で開催いたします。

11月5日(土)

椿市フットパスを開催します🌟

今回のフットパスでは、地域の方々と交流をしながら自然あ
ふれる行橋市入覚地区の椿市を歩きます!

フットパスが終わったあとには猪肉を使った特製のカレーも
準備しているので楽しみにしてください🍲

また、椿市フットパスは、未来構想会議が共催させていただきます!

いつもと一味違った行橋市でのフットパスを楽しんでいただ
けると幸いです🌟

椿市までは、行橋駅西口から無料送迎バスが運行していま
す!

秋になり涼しい気温の中で楽しくフットパスをしてみませんか?

たくさんのご参加をお待ちしています!!👣

○日時
11月5日(土) 10:30~13:30 (受付開始時間 10:00~)

○場所
入覚集会所
(行橋市入覚772-4)
※近隣に無料駐車場あり

○シャトルバス
行橋駅西口から無料送迎バス運行
9:30 行橋駅西口発

○参加費
500円(軽食代・マップ代)

○持ち物
水筒、タオル、歩きやすい服装

参加申し込みは下記のURLか、2枚目のQRコードからお願いいたします🌿

<https://forms.gle/tfb8Vwos42HUMKXc7>

つばきいち
椿市フットパス
～秋の味覚と大自然を満喫しませんか?～
【椿市フットパスでは...】
地域のありのままを歩いて楽しむフットパス!
自然あふれる椿市でフットパスを楽しみませんか??

11月5日(土)
時間: 10:30~13:30
(受付開始: 10:00~)

場所: **入覚集会所**
(行橋市入覚772-4)
※近隣に無料駐車場あり
行橋駅西口から無料送迎バス運行!
9:30 行橋駅西口発

参加費: **500円**
(軽食代・マップ代)

定員: **20名**
(定員に達し次第、応募を締め切らせていただきます)

【申し込み】
QRコードまたは裏面の応募用紙から

【お問い合わせ】
連絡: yukuhasi.kousou@gmail.com
TEL:0930-25-1911 (リブリオ行橋)
FAX:0930-25-2912 (リブリオ行橋)
主催: 椿市ファンづくりプロジェクト
共催: 行橋未来構想会議
後援: 行橋市

感染リスクに十分に配慮し、感染等を防ぐための対策を講じた上で開催します。また感染状況によっては急遽延期、または中止となる場合があります。

左【椿市フットパス 広報】

右【椿市フットパス チラシ】



左【椿市フットパス QRコード】

右【リブリオ市民講座 ～フットパス編～ 第2回 活動報告】

みなさんこんにちは!☀

10月16日(日)リブリオ市民講座～フットパス編～を無事に終えることができました🙌

(⚠️新型コロナウイルス感染対策を十分に行った上で開催しております。)

今回は6名のフットパスガイドさんのもと、「豪商館屋ゆく橋巡りコース」を巡ることができました!!

参加者同士の交流も沢山見られ、今まで知らなかったお店を見つけることができたり、行橋のまちの魅力を再発見したりすることができました!

また、初めて参加して下さった方だけでなく、リピーターの方も来て頂けてとても嬉しかったです😊

ご参加・ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました🙏🙏



みなさんこんにちは！☀️

11月5日(日) 椿市フットパスを無事に終えることができました🎉

(⚠️ 新型コロナウイルス感染対策を十分に行った上で開催しております。)

今回は、行橋市椿市地区の「伏水コース」と「別所古墳コース」を巡り、自然豊かな椿市地区で神社や古墳などの遺跡や、のどかな風景を楽しみながら、参加者同士の交流も多く見られたフットパスとなりました🌿

また、フットパス後には黒枝豆や野菜などの物産品の販売を行ったり、椿市地区でとれた猪肉と新米を使ったカレーライスも用意され、参加者には地域の食文化の体験としてご試食して頂いたりすることもできました🍲

参加者の方からは、

「たくさんの方とゆっくりお話することができ楽しかったです。椿市は昔ながらの家屋や遺跡が残っていて歴史を感じることができ、空気が美味しく心が落ち着きました。」

「景色のいいところを歩くことができ心地がよかったです。猪肉のカレーを食べお土産も買うことができとても満足です。」

などという感想を頂き、充実したイベントになったことを実感しました🙌

ご参加・ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました🙏



左【リブリオ市民講座 ～フットパス編～ 第2回 活動写真】

右【椿市フットパス 活動報告】



【椿市フットパス 活動写真】

新商品開発 実施報告

文責：桑畑南歩

(北九州市立大学 地域創生学群 3年生)

≪目的≫

店舗の売上アップにつなげるため

≪経緯≫

7月フットパスイベントで、店舗に立ち寄った際『参加者が購入意欲はあるものの、購入に至らない』という課題が挙げられた。この課題の原因として、価格が高いものが多く、参加者が手を出しにくいのではないかと考えた。解決するため手頃な価格で買える商品を開発することを立案し、店主の方と協働して商品を開発する運びとなった。

≪成果≫

フットパスイベント用の商品を開発することができた。各店舗の商品は以下である。大村大月堂では、まちあるきの前に黒糖饅頭を配布したことで、店舗に立ち寄った際に購入される方が多くいた。絹のいとでは、サイズが小さいものを販売することで、価格を抑えることができた。ものづくり room ポワンのポストカードは、店主の三輪三佐子さんの手作りで行橋商店街を描かれたものを選択した。米生地やでは、用意していたパンの詰め合わせが全て完売した。古溪庵は、別イベントの参加で当日立ち寄ることはできなかったが、パンフレットに掲載し周知につなげた。商品開発を通して『購入意欲はあるものの、購入に至らない』という問題に、コストを抑えた商品開発や商品のセット売りなどを行った。また、店主の方が直接店舗の魅力を伝える機会にもなった。その結果、店舗の売上に貢献することができたことに加え、店舗のリピーター獲得にも寄与することができた。

【各店舗での成果】

大村大月堂：10月フットパスイベント時に黒糖饅頭の配布、店舗の商品の配置変更

絹のいと：キャンドル・ミニフレームを販売（1,500～2,000円）

米生地や：パンの詰め合わせの販売（500円）

ものづくり room ポワン：ポストカードと雑貨のセットの販売（500～600円）

古溪庵：行橋フットパス立ち寄りスポットに掲載

【店主の声】

・大村大月堂（大村重彦さん）

お客様から「お店は以前から知っていたが入った事がなかった。黒糖饅頭が美味しかったから、また寄ります。」という声をいただけた。お店の変化としては、まち歩きに参加された方が、リピーターとして来店して頂けるようになった。

・ものづくり room ポワン（三輪三佐子さん）

学生さんと一緒に選んだりラッピングしたりして楽しかったので、一緒にして良かったと思っていて今もおいている。コラボ商品は9セット出品して、また他にも買っただけの方もいたので良かった。初めての方たちが購入されて、お店を知っていただけただけでもこちらは嬉しい。また直ぐでなくても後から思い出して来てくださる方もいると思う。



【10月フットパスイベント時の様子】

まちあるき 実施報告

文責：桑畑南歩

(北九州市立大学 地域創生学群 3年生)

≪頻度≫

月に2回程度

≪目的≫

売上アッププロジェクトに協力してくださる店舗を発掘するため

≪経緯≫

店舗の売上を上げるために、地域の方への店舗の周知が必要だと考えた。周知方法として、『行橋フットパス立ち寄りスポット』と題したパンフレットの作成に取り組んだ。作成にあたり、行橋商店街に存在する店舗の調査を行った。さらに、10月フットパスイベントで使用したマップにもパンフレットで取り上げた店舗を反映させ、店舗の位置情報を明確にした。

≪成果≫

『行橋フットパス立ち寄りスポット』に掲載する店舗の発掘を行った。本活動への理解を深めてもらうために、店主の方との交流を図り関係性を築いた。店主の思いやこだわりを聞き出し、店舗の魅力が詰まったパンフレット作成につながった。まちあるきを行ったことで、売り上げアッププロジェクトのための調査を進めることができたことに加え、行橋市中心市街地の商店主の方との関係性を深めることができた。今後も、店舗の発掘を行い地域の方々に認知を広げることで、店舗の売上につなげていきたい。



【店主の方との打ち合わせの様子】



【店舗調査の様子】

行橋フットパス（7月開催）イベント 実施報告

文責：野村侃可

（北九州市立大学 地域創生学群 3年生）

≪活動日≫

2022年7月24日(日) 13:00～16:30

≪人数≫ 計34名（※運営側の人数も含む）

- ・大学生：14名
- ・フットパスガイド：6名
- ・地域スタッフ：2名
- ・参加者：12名

≪目的≫

「売り上げアッププロジェクト」を目的として、これまで行ってきたフットパスイベントのコラボを行う。また、プレイベントとして各お店と新規客との出会いの場（マッチングの場）を創出する。

≪経緯≫

今回のイベントはフットパスを活用して商店街やフットパスコース中にあるお店の売り上げ向上を目指す「売り上げアッププロジェクト」を目的とする10月イベントに向けてプレイベントとして開催した。対象の店舗を5店舗に絞り、参加者を3チームに分けて時間の関係もあり1チーム4店舗ずつ回るお店を出発前に参加者と選んでもらった。フットパスガイド・地域学芸員の協力を得てお店の情報や各スポットの歴史、行橋のまちの良さを伝えることができた。このイベントを通して、まずは参加者にそれぞれのお店の認知度を高めることができたと考える。

≪成果≫

行橋フットパス（7月）

この日の大まかなスケジュールとしては以下の通りである。

- 1) 13:00～13:20 説明・写真撮影
- 2) 13:20～16:20 「駅前ぐるり舟路川コース」まちあるき

《反省》

7月フットパスイベント終了後の第54回未来構想会議にて、反省点があがった。それは、このイベントが何の為に開催されているのかについて目的の明確化をできていなかったことである。そして、その目的をイベントに参加する全ての人に共有が出来ていなかったことである。その反省点を踏まえて、10月フットパスイベントでは、未来構想会議で店主の方々との協議において目的を明確化しておくこと。その目的を、ガイドさんから参加者へ促していきたいと感じた。また、学生内の反省として、運営側で商店街のフードマップを作成し、配布したものの活用できなかったことがあげられた。定員人数には達しなかったものの、イベント開催のかたちづくりとして次につながるイベントになったと考える。また、一つ一つの品物の値段が高く、購入する人が少ないという課題が見えたことから、10月フットパスイベントでは、イベント限定の気軽に手に取れる商品開発をすることに決定した。



左【たこ焼きチエでのソフトクリーム購入】

右【鉄板バル Tomozo でのドリンク購入】



左【小麦の奴隷で購入した商品を食べしている様子】

右【たこ焼きチエで購入している様子】



【古溪庵で商店主と話している様子】



【鉄板バル Tomozo の店主と話している様子】

行橋フットパスイベント報告書

令和4年8月19日

行橋未来構想会議様

丹下・白石

①概要	
名称	行橋フットパスイベント
日程	令和4年7月24日(日) 13:00-16:30
場所	リブリオ行橋1階けやきホール
参加費	500円(資料代等)
定員人数	30名

②報告事項	
目的	各お店と新規客との出会いの場(マッチングの場)の創出
目標	定員30名のうちの8割(24名)をマッチングする

※目的・目標は後付け

イベント結果(各店舗の売り上げ等)

Aコース	古溪庵	鉄板バルTomozo	ポワン	小麦の牧場
立ち寄り人数	10	10	10	10
購入人数	0	11	1	10
購入物	×	ドリンク	雑貨	カレーパン
総額	0	¥5,050	不明	¥2,500

Bコース	古溪庵	鉄板バルTomozo	ポワン	たご焼きチエ
立ち寄り人数	11	11	10	11
購入人数	0	11	0	6
購入物	×	ドリンク	×	ソフトクリーム
総額	0	¥5,500	0	¥1,200

Cコース	古溪庵	鉄板バルTomozo	ポワン	たご焼きチエ
立ち寄り人数	11	12	12	12
購入人数	0	6	0	5
購入物	×	ドリンク	×	ソフトクリーム
総額	0	¥3,300	0	¥1,000

※概算

※廣川先生 からあげだいちやんで唐揚げ購入1,000
市民学芸員(8チーム)大村大月堂に立ち寄る

課題点	
・イベント前に目的・目標を定められていなかった。	
→アクターさんにも共有が出来ていなかった。	
改善策	
・参加者が街歩きで気軽に購入しやすい価格の商品をお店の方と一緒に作成。	
・目標の売り上げを数値化。	
・目的、目標の共通認識を持つ。(未来構想会議で再確認)	

【行橋フットパスイベント売上アップ報告書】

第1回 リブリオ市民講座フットパス編 実施報告

文責：白石瑚春

(北九州市立大学 地域創生学群 2年生)

≪活動日≫

2022年9月18日(日) 10:00~12:00

※台風の為、オンライン配信に変更

≪目的≫

行橋のまちの歴史や文化を知ってもらい、行橋に愛着や誇りを持ってもらうための学びの場であり、人との集いの場を創出することを目的としている。第1回の講座では、廣川祐司先生によるフットパスの勉強会を通して『地域の魅力を発見する楽しいまちの歩き方』を学ぶ。

≪経緯≫

行橋市民が集まる拠点であるリブリオ行橋図書館で、行橋のことを学び、人と人が繋がる場所になって欲しいという思いで実現した。計3回の講座を通して「勉強→実践→振り返り」と回数を重ね、フットパスについて学んでいく。

≪成果≫

【第1回】リブリオ市民講座

この講座の大まかな流れとしては以下の通りである。

- ①リブリオ市民講座とは
- ②未来構想会議とは
- ③本日の講師紹介 廣川祐司先生
- ④本日の講義内容
- ⑤講義の目的
- ⑥次回日程

リブリオ行橋図書館の正野昌子さんと副館長の工藤ともよさんとミーティングを重ね、未来構想会議が共催のリブリオ市民講座のオンライン配信を行った。

今回の講義の講師は、北九州市立大学准教授の廣川祐司先生が担当した。『地域の魅力を発見するまちの楽しい歩き方』と題して、「フットパス」という言葉を覚えて頂いて、歩く楽しさを知ってもらうことを目的に講義を行った。

参加者のアンケートからは、「フットパスの楽しみ方が理解出来た。」や「曖昧だったフ

ットパスの知識が確かなものになった。」という感想を受け、この講座を通してフットパスについての理解が深まったことが感じ取れる。また、フットパスについての自由記入欄では、「地域の人たちとの交流が魅力」や「地域との交流を自分から持とうとしたり、地域のことを自分から知ろうとしたりする活動であるフットパスは、地域との繋がりや情報を沢山得ることが出来て面白い。」といった、参加者がフットパスに対する魅力を想い思いに記入しているものが目立っていた。第2回リブリオ市民講座に繋がる良いフットパス勉強会になった。

行橋のまちの歴史や文化を知って
行橋をもっと好きになろう!
楽しく学ぶ3回コースです!

フットパスとは
地域に昔からあるりのままの風景を
楽しみながら歩くこと

リブリオ市民講座 フットパス編

【第1回】	【第2回】	【第3回】
9/18 (日)	10/16 (日)	11/20 (日)
字ぼう! フットパス勉強会! 「地域の魅力を発見する 楽しいまちの歩き方」 (講師) 廣川祐司 (北九州市立大学 准教授)	歩こう! 行橋フットパス ガイドさんとまちあるき 【萩商船屋ゆく橋通りコース】	考えよう! 地域づくりにつながるフットパス グループワークを通して これからの地域づくりに活かそう
10:00~12:00(受付9:45~) 3階スタジオA	13:00~16:30(受付12:30~) 1階けやきホール	10:00~12:00(受付9:45~) 3階スタジオA

*第2回だけ参加費500円がかかります。
全3回参加の方優先ですが1回だけの参加も可能です。



【お申し込み】
電話・FAX
もしくは1Fサービスデスクで
お申し出ください
※個人情報 は本事業のみに使用し、
適切に管理いたします。



【お問い合わせ】
リブリオ行橋 (行橋市図書館)
TEL:0930-25-1911
FAX:0930-25-2912
主催:リブリオ行橋 (行橋市図書館)
共催:未来構想会議
後援:行橋市教育委員会



リブリオ行橋HP

※感染リスクを十分に配慮し、感染等を防ぐための対策を講じた上で開催します。
また、感染状況によっては急遽延期、または中止となる場合があります。

【リブリオ市民講座 チラシ】

10月フットパスイベント 実施報告

文責：上山璃理香

(北九州市立大学 地域創生学群 2年生)

《活動日》

2022年10月16日(日) 13:00~16:30

《人数》 : 計59名 (※運営側人数も含む)

(内訳)

- ・大学生:12名
- ・フットパスガイド:6名
- ・参加者:41名

《目的》

本イベントを通して、歩くことで知らなかったまちの魅力やお店を発見してもらい、新たに新規顧客を開拓することを目的としている。単にお店を訪れるだけでなく、店主の人柄やこだわりに直接触れ、知る機会を提供する。

《経緯》

リブリオ市民講座1回目では「行橋の魅力を発見する新しいまちの歩き方」と題し、まちの歩き方を学ぶフットパス講座を実施した。この講座を踏まえ、売上アッププロジェクトへの取り組みが遅かったという課題が出た。この課題を解消するため、リブリオ市民講座2回目~10月フットパスイベント~を開催する運びとなった。本イベントを実施するにあたり、新商品の開発や売り方の工夫等を行うことによって、お店の商品や店主の想いを理解していただくことができ、売上アップにも繋がることのできた。

《成果》

イベント当日の大まかなスケジュールとしては以下の通りである。

- 1) 13:00~13:20 説明・写真撮影
- 2) 13:20~16:20 まちあるき
- 3) 16:20~16:30 アンケート

行橋リブリオ図書館にて、「リブリオ市民講座2回目~10月フットパスイベント~」を実施した。

今回は、定員30名という枠を超えた41名もの幅広い年代の方々に参加してい

ただいた。初めて参加して下さった方だけでなく、以前も参加して下さったリピーターの方にも来ていただいた。本イベントは、売上アッププロジェクトの一環であったため、各お店と共に、フットパス協力店として、商品の売り方の工夫や新商品の開発を行った。各店舗の売り上げ結果は、全チーム(3チーム)の総額44,780円という成果を収めることができた。また、41名もの顧客を開拓することができ、多くの方に店主のこだわりや思いを感じていただくことができた。

イベント後のアンケート結果では、「行橋に住んでいても初めて来た場所があった」や「別日にまた行きたい」という回答を多くいただいた。また、初めて立ち寄った方が各店舗10名以上であるということから、本イベントをきっかけに、まちの魅力やお店を発見し、それを持ち帰っていただくことができたと考える。

本イベントを通して新店舗とも協力することができたため、今後も継続的に連携し、歩くことによって中心市街地の魅力を発信していきたい。

豪商館屋
ゆく橋巡りコース

行橋フットパス

10.16(日) 13:00~16:30
(受付時間 12:30~)

場所：リブリオ行橋1階けやきホール
参加費：500円(資料代等)

【行橋フットパスでは】
行橋のフットパスガイドさんと一緒に昔からある行橋のありのままの風景を楽しみながら歩きます！
歩くなかで知らなかったお店や人と出会い行橋の魅力を再発見しましょう！

【お問い合わせ】
連絡先: yukuhari.kousou@gmail.com
TEL: 0930-25-2912
FAX: 0930-25-1911
(リブリオ行橋図書助)
主催: リブリオ行橋
共催: 行橋未来構想会議
後援: 行橋市役所・行橋商工会議所

【お申し込み】
QRコードまたは
裏面の応募用紙から

※本事業は、行橋商工会議所から2022年度産業小規模事業者支援推進事業の助成を受けています。※経常リスクを十分に配慮し、感染症を防ぐための対策を講じた上で開催します。また、感染状況によっては急遽中止、または中止となる場合とあります。

行橋フットパスイベント報告書

開催日	10月16日(日)
開催時間	13:00~16:30
開催場所	リブリオ行橋1階けやきホール
主催	リブリオ行橋
共催	行橋未来構想会議
後援	行橋市役所

①開催目的
歩くことでのまちの魅力や発見を促進する

②開催内容
【事前準備】各店舗の魅力を伝えるための準備、チラシの作成など。
【当日開催】13:00~16:30(受付時間12:30~)の間に各店舗を巡り、商品やサービスを紹介する。
【アフターフォロー】各店舗の魅力を伝えるためのフォローアップなど。

チーム	参加者数	参加者数	参加者数	参加者数
全参加者数	2	14	14	14
参加者数	2	3	3	3
参加者数	2	3	3	3
参加者数	2	3	3	3

チーム	参加者数	参加者数	参加者数	参加者数
全参加者数	2	14	14	14
参加者数	2	3	3	3
参加者数	2	3	3	3
参加者数	2	3	3	3

左【リブリオ市民講座2回目~10月フットパスイベント~ ポスター】
右【リブリオ市民講座2回目~10月フットパスイベント~ 報告書】

大村大月堂

創業132年目の老舗和菓子屋さんで、若い店主さんが活躍してくれています。名物の栗餅が人気です。

行橋市大橋7丁目11-20
営業時間：9:00-18:00
定休日：日曜日
TEL：0930-22-021

古澤庵

創業78年目の和菓子屋さんで、奥の院が活躍してくれています。お餅が人気です。

行橋市大橋7丁目2-5
営業時間：9:00-18:00
定休日：日曜日
TEL：0930-22-0340

ものづくりroomポワン

手作り菓子のほかに、特選さんとの肉の漬物やフナ刺身なども販売されています。

行橋市大橋7丁目11-20
営業時間：11:00-18:00
定休日：日曜日
TEL：0930-25-6333

行橋フットパス 立ち寄りスポット

餅のいと

アンティークが並ぶ和菓子屋で、二階には自製餅の展示場がある。お餅の文化を伝えるスペースがあります。

行橋市大橋7丁目11-2
営業時間：11:00-17:00
定休日：不定日
TEL：090-5267-8909

米生地や

米道メーカーがつくる奥の院で、原料にこだわったお餅の文化を、お餅に響かせるパンを販売しています。

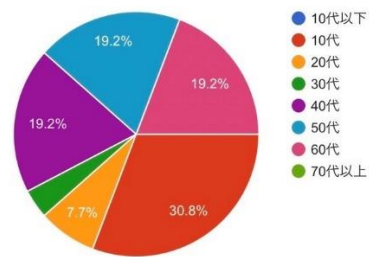
行橋市大橋7丁目11-5
営業時間：11:00-17:00
定休日：日曜日
TEL：0930-26-2366

【行橋フットパス店舗立ち寄りスポット チラシ】

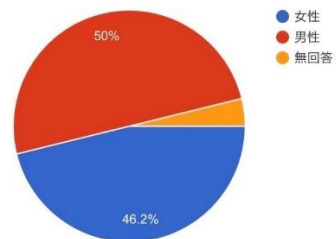


【イベント当日の様子】

年齢
26件の回答

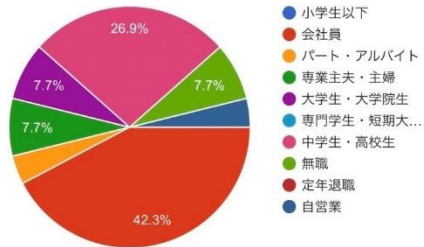


性別
26件の回答



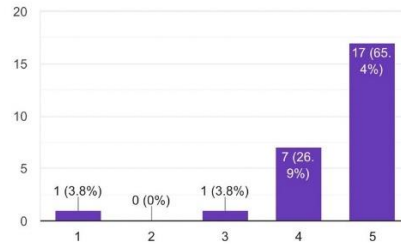
所属

26 件の回答



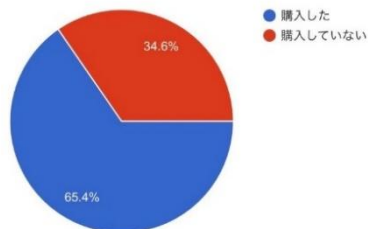
満足度

26 件の回答



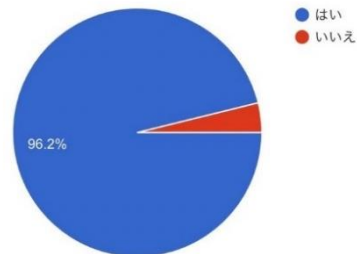
立ち寄ったお店で商品を購入しましたか？

26 件の回答



次回も参加したいですか？

26 件の回答



印象に残った場所

- ・旧屋門(17人)
- ・絹のいと(8人)
- ・土俵(6人)
- ・木の電柱(6人)
- ・大橋太郎(5人)
- ・ものづくり room ポワン(5人)
- ・路地裏(4人)
- ・木の門(4人)
- ・酉福寺(3人)
- ・井戸(3人)
- ・お墓(3人)
- ・玉江家の門に向かう小道(2人)
- ・貴船神社(2人)
- ・米生地屋(2人)
- ・大橋神社(2人)
- ・お寺(2人)
- ・忠霊塔(1人)
- ・中央公民館(1人)
- ・萬年橋(1人)
- ・商店街(1人)
- ・黒糖饅頭(1人)
- ・浄蓮寺(1人)

上記より、本イベントを通して、印象に残った場所のなかで、「絹の糸」「ものづくり room ポワン」「米生地や」「黒糖饅頭」「商店街」の計 17 名が、商店や各お店の商品に興味を抱いていただいたということがわかる。

今回のイベントで初めて立ち寄ったお店

- ・米生地屋→20 人
- ・大村大月堂→16 人
- ・絹の糸→13 人
- ・ものづくり room ポワン→13 人
- ・場所の記載なし→7 人
- ・なし→6 人

本イベントを通して、新たな新規顧客として総計 69 名(複数回答有り)が店を訪れ、顧客と店主とのマッチングを行うことができたといえる。

訪れたお店の魅力や発見(原文通り)

- ・昭和レトロの雰囲気でした。
- ・レトロ、こだわり、安い
- ・絹のいと 普段触れることの出来ないレコードや黒電話を体験させて貰えた。
- ・ものづくり room ポワン 学生とのコラボ商品や他のイベントに参加したり地域との関わりが深い。
- ・絹のいと レコードや黒電話など昔のものがあつた、珍しい時計があつた
- ・普段行かないところに自分の好きな雰囲気のお店があつた
- ・お店の人の温かさ、昔ながらの製品を大切にしている、全て手作りである
- ・絹のいとは、父が残したものが飾つてあり、店主が自ら解説してくれた。ものづくり room ポワンは、コラボ商品やきせつのものであり、見るだけでも楽しめた。大村大月堂は、長年続く和菓子店で行橋のお土産にもってこいだと思つた。
- ・米粉パンは健康重視ですかね
- ・絹のいとさんの時計修理道具なども展示されているのは、お店を身近に感じると共に商品ひとつひとつが温かみのあるものに感じられました。今回の街歩きではないのですが、ポワンさんの店主は以前贈り物を選ぶときにご相談に乗ってくださりそうしたお店の方との交流を感じられる点がとても良くまた行きたいなど

思うポイントでした。大村大月堂さんは商品を購入する際とても丁寧にご対応いただき素敵だと思いました。

- ・黒糖まんじゅう
- ・どのお店もてづくりやハンドメイドのものが多くて温かさを感じました。
- ・フットパス協力店のチラシがあって地域同士の繋がりもあるのだなと感じました。
- ・チラシなどが充実していてまた来たいなと思わせられる工夫がありました。
- ・商品のことを丁寧に説明していただきました。
- ・生地へのこだわり
- ・色んな作家さんの作品が並んでいて良いと思いました。
- ・店主の笑顔、人の良さ、言葉
- ・手作りにこだわっている
- ・体に優しそうなパンです。
- ・こんな所にあっただのかと思った
- ・大村大月堂さんで行橋饅頭を見て懐かしかった
- ・以前よりよく知っていた
- ・レトロ感があっていい。明るい雰囲気。おいしい。
- ・絹のいとでいろんなアクセサリー
- ・歴史感の残っている建造物全部
- ・饅頭が安い。アクセサリーは別日に行こうと思う
- ・レトロな感じがよかった
- ・小さなお店にもいいものがある(こだわり)
- ・米生地屋の米を材料としたパン

当イベントの感想や要望(原文通り)

・飲食店にも立ち寄りかった。

- ・思い出作りになりました。いろいろな人と交流がもて素晴らしかったです！
- ・行橋に住んでいても初めて来た場所があり、とても面白かった。
- ・行橋市は広いので知らないところが多かった。また、普段関わることのない人とお話もできて楽しかった。
- ・今回は、細い道を通り中になった気分でした。
- ・今まで知らなかった行橋の色々な事を知ることが出来て、良かったなと思いました。自分では行かないような所、興味の無かった所に興味を持つきっかけ

になりました。

- ・行橋でも行ったことないところがたくさんあると感じた。ガイドさんの説明もなかなか聞く機会がなく、歴史のことも知れたので楽しかった。
- ・また参加します
- ・イベントに参加するごとに同じルートではあるけれど、参加者の方が違うので前回とは違うお話をできるのが何度通っても楽しい、1人で歩くのとはまた違った魅力だなと思いました。
- ・ゆっくりまわられてよかったです。
- ・地域全体をじっくり回ることができたため今まで知らなかったことを知ることができてよかったです
- ・ありがとうございました。
- ・ゆっくり回れたんですけど、もう少し早くあるきたかったです。
- ・ゼミの雰囲気を知りたくて参加しました。とても楽しかったです。フットパスでないと通り過ぎてしまうようなものをじっくりみることができたので初めてのフットパスも雰囲気を感じることができました。
- ・行橋に職場がありますが、通勤では通り過ぎてしまうところにも、歴史があることが、説明していただいて初めて分かりました。
- ・楽しかったです
- ・飴屋門2回目。他のコースを歩きたい。
- ・とても良かったです
- ・沢山歩いて楽しかった
- ・新しい発見があってよかった
- ・何回歩いても新しい発見があり、満足しています。
- ・もっと歴史をしっかりと説明ほしかった
- ・知っているつもりでも知らないことも多かった
- ・いろいろ人と出会い交流がもて、知らない行橋のことを知ることができ、とても良かったです。
- ・お店に立ち寄るきっかけがあり、興味が持てる行事でありました。
- ・大変良かったと思います。
- ・2回目の参加ですが、楽しく過ごせました。
- ・準備してもらって、説明良かった
- ・よく歩いて、気持ちがよかったです。
- ・ぜひ、継続下さい
- ・若い人に参加してほしい
- ・とても楽しかったです
- ・いろんな勉強になりました。ありがとうございました。

【Google アンケート 集計結果】

第2回 歩こう！行橋フットパス
リブリオ市民講座
～フットパス編～



主催：リブリオ行橋(行橋市図書館)

～フットパス編～



【勉強会→実践→振り返り】

計3回の講座を通して
フットパスについて学んでいく！



今回の講座では
前回の勉強会で学んだまちの歩き方を
実践して、お気に入りの場所や
行橋の歴史や文化について
知っていきましょう！

フットパスとは？

地域に昔からある、^{イギリス発祥！}
ありのままの風景を楽しみながら歩くこと



ちなみに・・・
フットパスガイドさんは？



バスガイドさんとは違う！
自分自身が興味を持ったものや植物など聞いてみよう！

コース名・お店紹介

豪商飴屋ゆく橋巡りコース

- Aチーム 大村大月堂・ものづくりroomポワン・絹のいと
Bチーム 大村大月堂・米生地や・絹のいと
Cチーム 大村大月堂・米生地や・ものづくりroomポワン

※別イベントのため古溪庵さんは別紙にてご紹介させていただいております

楽しむための3箇条



1. たくさんの
視点をもとう！



2. 気になったものを
ガイドさんに
聞いてみよう！



3. 写真を撮
ろう！

未来構想会議（共催）とは？

【歩行者優先のまちづくり】

日 時: 毎月最終金曜日 18:00～

場 所: リブリオ行橋

主な参加者: リブリオ行橋・行橋商店街主・商工会議所
観光協会・市役所・北九大生
周辺地域の方々など

○Facebook: 「ある～く行橋」

○Gmail : yukuhasi.kousou@gmail.com

～興味のある方はご連絡ください!見学大歓迎です!～



カントリーコード（注意事項）

①



挨拶

②



コースから外れない

③



気配り

④



ゴミの持ち帰り

⑤



交通ルール

⑥



各自注意

⑦



コロナウイルス対策

⑧



感謝の気持ち

【リブリオ市民講座 2 回目～10 月フットパスイベント～ スライド】

第3回リブリオ市民講座フットパス編 実施報告

文責：白石瑚春

(北九州市立大学 地域創生学群 2年生)

≪活動日≫

2022年11月20日(日) 10:00~12:00

≪人数≫計26名(※運営側人数も含む)

- ・大学生：7名(先生1名)
- ・地域スタッフ：7名
- ・参加者：11名

≪目的≫

行橋のまちの歴史や文化を知ってもらい、行橋に愛着や誇りを持ってもらうための学びの場であり、人との集いの場を創出することを目的としている。第3回講座では、第1回と第2回の振り返りを行い、オリジナルフットパスコースを作成する。

≪経緯≫

行橋市民が集まる拠点であるリブリオ行橋図書館で、行橋のことを学び、人と人が繋がる場所になって欲しいという思いで実現した。計3回の講座を通して「勉強→実践→振り返り」と回数を重ね、フットパスについて学んでいく。

≪成果≫

【第3回】リブリオ市民講座

この日の大まかなスケジュールは以下の通りである。

- 1) 9:45~10:00 受付
- 2) 10:00~12:00 講義(写真撮影)
 - 前回までの振り返り(40分)
 - 3チームに分かれてフットパスコースづくり(50分)
 - 発表・反省(20分)
 - アンケート・写真撮影(10分)

リブリオ行橋にて第3回リブリオ市民講座『考えよう!地域につながるフットパス』を11月20日(日)に開催した。

今回は、第2回リブリオ市民講座のまちあるきイベント参加者の内、10代から70代までの幅広い年代の方18名が本講座に参加して頂いた。初めに、第1回の講座と第2回のまち

あるきイベントをスライドや写真を用いて振り返った。その後、実際に3チームに分かれてフットパスコース作りを行った。ガイドさんを中心に、班の中で知っているスポットや面白い人や道を出し合い、短い時間で活発なディスカッションをすることが出来た。

作成されたコース中には、第2回リブリオ市民講座で立ち寄った商店も含まれており、参加者が他者に発信していることが分かる。

参加者のアンケートからは、「行橋について、色々な人からお話を聞いてとても良かったです。」や「知らないスポットを発見出来ました。」といった感想が多く、行橋のまちをじっくりと見つめ、魅力を再発見する有意義な時間になったことが感じ取れた。第また、「実際に歩いてみたいです。」という感想が沢山あり、作成したコースを実際に歩く企画を行いたいと考えている。新コース作成に向けても実りのある講座になった。

現在、作成したコースはリブリオ行橋図書館のワーキングスペースにて掲示されている。



【講義の様子】



【作成したコース】

【本事業費は使用していないが、本事業に関係するであろう自主事業として記載】

〔参考〕第1回 椿市ファンづくりプロジェクト 実施報告

文責：川口誉天

(北九州市立大学 地域創生学群 3年生)

≪活動日≫

- 2022年5月13日(金) 地域散策
- 2022年6月21日(火) コース探し
- 2022年7月29日(金) コース探し
- 2022年8月5日(金) コース調査
- 2022年9月16日(金) 挨拶回り(地域の方々)
- 2022年9月23日(金) 挨拶回り(地域のイベントに参加)
- 2022年10月17日(月) ポスター配り
- 2022年10月19日(水) 椿の里地域交流センターさん打ち合わせ
- 2022年10月26日(水) 椿の里地域交流センターさん打ち合わせ
- 2022年11月4日(金) イベント準備
- 2022年11月5日(土) イベント当日

≪人数≫計40名(※運営側の人数も含む)

(内訳)

- ・大 学 生：14名(※先生も含む)
- ・地域のスタッフ：2名
- ・参 加 者：24名

≪目的≫

行橋市椿市校区の特産品を中心市街地で販売することにより、商店街の魅力向上へ繋げることを目的としている。新商品開発を行うだけでなく、椿市校区での商品の発掘、生産業者との関係性構築のため、地域調査及びその仕組みづくりを行いたいという思いから本プロジェクトを実施した。

≪経緯≫

私たちグループの中に行橋市出身がおり、椿市のファンなのだが、地域内の人たちは地域の魅力に気づいておらず、発信も出来ていない。私たちのような椿市の関係人口を増やし、椿市の特産品を中心市街地で販売を行う為、魅力的な地域資源調査を住民と共に実施し、その成果をPRする為のイベントを開催するに至った。

≪成果≫

イベント当日の大まかなスケジュールとしては以下の通りである。

- 1) 10:00～10:30 受付
- 2) 10:30～11:00 フットパスの説明・写真撮影
- 3) 11:00～12:30 フットパス実施
- 4) 12:30～13:30 軽食（地域の食材を使ったカレーを提供）・アンケート
- 5) 13:30～14:00 物品販売（地域の食材を販売）

行橋市椿市校区入覚地区の公民館にて『椿市フットパス～秋の味覚と大自然を満喫しませんか？～』を実施した。

今回は、10代未満から60代の方までの幅広い年代の方24名が本イベントに参加して頂いた。自然豊かな椿市地区で、神社や古墳、長閑な風景を楽しみながら、参加者同士の交流も多く見られるフットパスイベントとなった。椿市地区の猟師さんの猪肉を使ったカレーライスも用意され、参加者には地域の食文化の体験として試食して頂いた。また、物品販売では、マップにて紹介させて頂いた椿の里地域交流センターの食材や地域の方が準備してくださった干し柿や黒豆などを販売した。

イベント後のアンケート結果では、満足度5段階評価中回答者全員が満足度5と答えて頂いた。感想では、「静かで時間がゆっくり過ぎていく感じがとても素敵でした」や「いろんな交流ができ、椿市の景色や食べ物がとても良かった」という回答をいただくことが出来た。また、「次回参加したいですか?」という質問に対し、回答者全員が「はい」と答えて頂いた。

さらに、椿市フットパスに参加してくださった方が自らイベントを開催した際に、カレーライスを振る舞うといった繋がりを見せている。

当イベントを通して、行橋市椿市地区という地域の魅力を椿市地区内外の方へ発信をすると共に、地域の方のシビックプライドの向上を推進することが出来た。これからも定期的に今回のようなイベントを開催することや新たなフットパスコースを作成する事で、椿市地区の関係人口を増加させるための仕組みづくりができるのではないかと考えた。

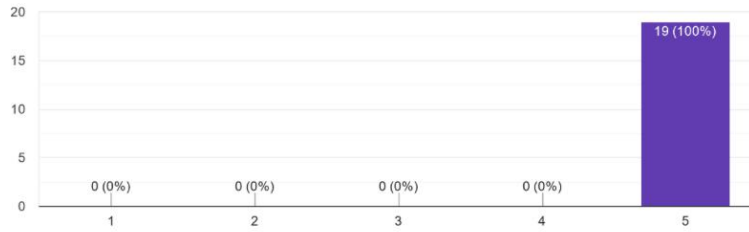
つばし
椿市フットパス
～秋の味覚と大自然を満喫しませんか？～
【椿市フットパスでは…】
地域のありのままを歩いて楽しむフットパス！
自然あふれる椿市でフットパスを楽しみませんか？
11月5日(土)
時間：10:30～13:30
(受付開始：10:00～)
場所：入覚集会所
(行橋市入覚772-4) 9:30 行橋駅西口から無料送迎バス運行！
※近隣に無料駐車場あり
参加費：500円
(軽食代・マップ代)
定員：20名
(定員に達し次第、応募を締め切らせていただきます)
【申し込み】
QRコードまたは
裏面の応募用紙から
【お問い合わせ】
連絡：yukehasi.kousou@gmail.com
TEL:0930-25-1911 (リプリア行橋)
FAX:0930-25-2912 (リプリア行橋)
主催：椿市ファンづくりプロジェクト
共催：行橋未来構想会議
後援：行橋市
※参加費に不足に該当し、感染症を防止するための対策を講じた上で開催します。
また雨天決行によってはお断り願います。また途中には必要に応じて中止します。

【椿市フットパス～秋の味覚と大自然を満喫しませんか？～ ポスター】

【イベント当日の様子】

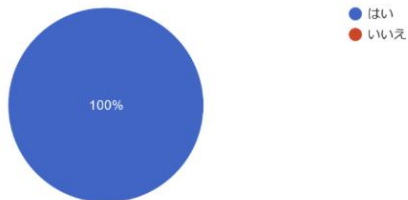
満足度

19件の回答

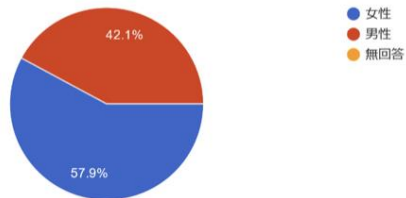


次回も参加したいですか？

19件の回答

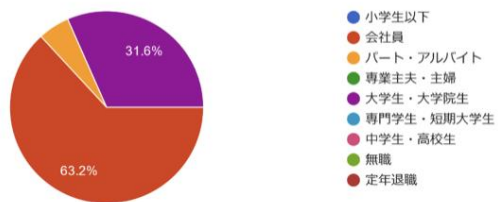


19件の回答



所属

19件の回答



椿市のいいところを記入してください。

- ・景色がきれい、空気がいい
- ・自然が美しい、空気がおいしい
- ・緑が豊か、静かなところ
- ・のどかな風景、お米が美味しかった
- ・自然が豊か、植物-野菜-果物がたくさんあった
- ・田んぼの展望台、五社大社
- ・豊かな自然と住民の仲の良さ
- ・豊かな自然、ゆっくりと流れる時間
- ・自然が豊か、時間がゆっくり流れている
- ・自然がいっぱい、実は歴史も深そう
- ・自然が豊かなところ、昔ながらの家屋や古墳のような遺跡が残っているところ
- ・自然、地域の人
- ・神社、水

当イベントの感想や要望をお聞かせ下さい。

- ・普段マンションなどに囲まれて生活しているので、自然豊かで空気が美味しいところが新鮮で癒やされました。また、ゼミ生のみなさんと参加者のみなさんと沢山お話させていただけるとても楽しかったです。
- ・普段、立ち寄ることの無い町を、みんなで歩くことで、新たな発見や思い出ができました。コースも良かったし、何より事故・怪我なくイベントを終えられた事が最高ですね。
- ・今回友達誘いで初めてフットパスに参加しました。豊かな自然の中を歩きながら、住民の方々と大学外の方々とたくさんお話できてとても楽しかったです。
- ・静かで、時間がゆっくり過ぎて行く感じがとても素敵でした。なかなか田んぼや畑を歩くことがないのでフレッシュできました。ありがとうございました！
- ・距離的に丁度良かった、別所古墳の詳細が、もっと知りたかった。ありがとうございました。駐車場まで案内してくれてすみませんでした。感謝
- ・まちあるきが好きなので、とても楽しかったです！猪肉のカレーを食べれて、お土産も買ってとても満足です！ありがとうございました！
- ・たくさんの方とゆっくりお話できて楽しかったです！椿市も自然豊かで心が落ち着きました！カレーもとても美味しく大満足です！
- ・景色のいいところを歩いて心地よかった。古墳のことが詳しく知りたい。行橋市にコースがもっと欲しい。
- ・田舎道を散歩してお腹が空いた後のカレーがとても美味しかったです。
- ・天気も良くて自分の住んでるのに知らない所があって楽しかったです♪
- ・いろんな交流ができたり、椿市の景色や食べ物が美味しかった！
- ・フットパスらしき全開のコースを堪能できて楽しかったです。
- ・今回初めて椿市を訪れました。楽しかったです。
- ・これからもよろしく願います。
- ・別のコースもあるきたいです。
- ・行ける範囲で参加してます。

【Google アンケート集計結果】

【本事業費は使用していないが、本事業に関係するであろう自主事業として記載】

〔参考〕全国フットパスの集い 2022 in うすき 実施報告

文責：川口 誉天

(北九州市立大学 地域創生学群 3年生)

≪活動日≫

2022年10月29日(土) フットパスフォーラム編

2022年10月30日(日) フットパスウォーク編

≪人数≫

・大学生：29名

≪目的≫

國學院大学観光まちづくり学部教授である下間久美子氏によるフットパスに関する講義、開催地である臼杵市の活動報告、全国からの参加地域の活動報告、臼杵市でのフットパスの実践を行う中で、行橋市商店街の売り上げアップのためのスキルアップを図り、未来構想会議の今後の活動に生かすことが目的である。

≪経緯≫

未来構想会議では、「歩行者優先のまちづくり」のコンセプトをフットパスというツールを用いて実現させようと日々活動をしている。その中で私たちは、行橋市でガイドの養成、フットパスイベントの企画・運営を行ってきた。今年度、未来構想会議では商店街の売上アップを目標として活動してきた。そこで、更なる売上の向上を目指し、他地域でのフットパスを用いたまちづくりの活動を参考にするため、全国フットパスの集い in うすきに参加しているフットパスの先進地域の活動報告や臼杵市のフットパスへの参加を決意した。

≪成果≫

<1日目>

13:00	集合(KIJOKAKU)
13:30	フットパスフォーラム 開会
13:50	講演 下間久美子 教授
15:05	開催地報告・県内報告
16:35	全国からの参加地域紹介
16:45	次期開催地挨拶
17:00	フットパスフォーラム 閉会

18:30	分散交流会
-------	-------

1日目は KIJOKAKU で、フットパスフォーラムが開催された。國學院大学の久美子教授の講演に加え、開催地である白杵市の活動報告、参加している全国各地での活動報告などが行われた。「歩行者優先のまちづくり」をコンセプトに活動している私たち学



生にとって、とても学びの多い場となった。

【講演の様子】

【北九州市立大学学生による発表の様子】

また、参加地域紹介では、北九州市立大学の学生による発表の場も設けられ、これまで行ってきた活動を発表した。

<2日目>

9:00	各自集合場所到着
9:15~9:30 頃	フットパス開始 ※6 チームに別れてフットパス実践 ○参加コース ・下ノ江港と白杵湾絶景コース ・下北まほろばコース ・手無し地藏と王の字コース ・見晴らし三角台漁師町なぎさコース ・みかんと黒島の潮風コース ・野津 田野里山コース
13:30~13:45 頃	フットパス終了
14:00	帰宅

2日目は、学生は6チームに分散し、各々が指定されたコースで、フットパスウォークを実践した。普段歩いている行橋市とは、違った風景や建造物、特産品があり、今まで経験したことのないフットパスを体験することができ、白杵市の魅力をたくさん知ることがで

きた。白杵市でのフットパスの経験を受け、継続的にまちに人を呼び込むためにはどのようなコース作成が効果的なのか、どのように特産品を広告することで参加者が特産品を手にとってくれるのかを学んだ。これから行橋市に定着させていく必要がある情報を得ることができた。

また、フットパスウォーク終了後には、参加者と共に地域で採れたお米や野菜を使ったフットパス弁当をいただいた。フットパス弁当は、地域の方々が料理を一品ずつ説明してくださり、地産地消や環境にこだわった地域の食材に、より興味が湧くような内容となっていた。

今回の全国フットパスの集い 2022in うすきは、次年度行橋市で大規模なフットパスイベントを開催する際の広報を行うため参加した。全国フットパスの集いの役員の方々とお話させていただき機会があり、行橋の街中で大規模なフットパスイベントを行うことに対して、了承を得ることができた。また、このような大規模なイベントを行うことで、地元産品が多く売れるということをも身を持って体感した。次年度開催予定であるイベントに対する希望を持つことができた学びであった。



【フットパスウォークの様子】



【全国フットパスの集い in うすきのチラシ】

おわりに

本事業は、「顧客が固定化・減少化してきている中心市街地の商店主が外部者の協力を得て、新たな顧客との繋がりを生み出すための実践を商店主（小規模事業者）同士の連携・協働により達成することを目的」として行われた。その目的を達成するために、以下の 3 つの取り組みを実施した。

- A. 月に 1 回の頻度で商店主（小規模事業者）が参加する勉強会・研修会の実施
- B. （若者のニーズ・視点を入れながら）新規顧客が購入しやすい商品の開発
- C. 中心市街地の商店があるエリアに新規顧客を誘導し、商店主と新規顧客が出会える機会の場を創出する事業を、多様なアクターとの協働により実施する。

（商店交流型まち歩き事業）

行橋市中心市街地の商店街の店主たちは、商店街へやってくるお客さんの減少により、自分たちの店（各個店）の利益を上げることに精一杯となり、なかなか商店街全体や中心市街地の賑わいづくりに対して、時間や労力をかけることができずに、有効な手立てがないまま、客足が遠のいていく現状を受け入れざるを得ないようになってきている。

しかし、郊外には大型スーパーなどと対抗するために、商店街の一商店の努力ではどうにもすることができず、商店街を挙げて、もしくは商店同士の連携によって、「自分の店のみならず」中心市街地のまち全体への人の流動性を高め、人がやってくる賑わいづくりが必要であった。

そこで、我々がとった策としては、各個店の扱う「商品による集客」ではなく、まちの魅力や商店主の魅力（こだわり）などによって、新たな顧客を開拓する方法を選んだ。大量生産大量消費時代においては、より安価に財やサービスが提供される大規模店舗と、価格面で競争することは、商店街の各個店においては望ましくなく、「地域のファン」「お店の応援団」「こだわりの逸品」に対しての優位性をアピールすることが望ましいと考えた。

そのため、まずは我々の方針に賛同して頂ける商店主とともに、月に 1 回の研修会を定期的に行い、行橋市の中心市街地の歴史や文化、お店の成り立ちなどを知ってもらうための企画を立ち上げた。それが 10 月に開催した「商店交流型まち歩き事業」である。まちを散策し、その途中で商店街のお店に立ち寄って、商店主たちと交流をしてもらうことで、新たな顧客の開拓に寄与できる仕掛けである。単なる「商品売るだけ」でなく、まちに歩きに来てくれた方々に店主が話しかけ、商品へのこだわりやまちへの思いを語っていただくことで、大規模店舗とは異なる「商品の物語（ストーリー）」をお客さんたちに伝える

ことができたと考える。

高価な商品を扱うようなお店の場合は、この「商店交流型まち歩き」の際には、大学生とともに開発した「手に取りやすい新商品」を新たに作り、1商品が1000円未満となるようなオリジナル商品も取り扱って頂いた。まちに歩きに来た人がふらっと立ち寄って、気軽に購入できる価格帯の商品を展開して家に持って帰ってもらうことで、そのお店の味や商品の良さ、こだわりを実感することに繋げることができた。

現在、消費動向が大きく変化してきており、「モノ消費」から「コト消費」への移行が急速に進んでいる。「モノを安く（大量に）売る」というビジネスモデルから、「コト（物語のある出来事）を売り、ファンや応援団になってもらうことで消費に繋げる」という形態へ、商店街の店は変化していかなければならないのであろう。そのためには、商店主の意識や考え方自体も大きな変化が求められる。「コト消費」型のファンづくりを積極的に商店主自身が行うように、定期的な研修会によって、みなで共に実践していきつつ、今後も効果を出していきたいと思う。

北九州市立大学 地域創生学群

廣川研究室 代表

准教授 廣川祐司

行橋中心市街地
「行橋未来構想会議」負担金事業
2022年度 活動成果報告書

発行日：2023年1月31日

発行者：北九州市立大学 地域創生学群 廣川研究室